

各 関 係 機 関 御 中

石川県農林総合研究センター所長
(公 印 省 略)

病害虫発生予察情報について

令和 7 年度病害虫発生予報第 1 号を下記のとおり送付します。

連絡先	石川県農林総合研究センター 農業試験場 中央普及支援センター 病害虫防除室 電話 076-257-7041 (直通) FAX 076-257-9140 E-mail kisk0301@pref.ishikawa.lg.jp
-----	--

病害虫発生予報第 1 号 (予報期間：4 月下旬～5 月中旬)

予報内容

水 稲

イネミズゾウムシの発生は**多**と予想される。箱施薬していないほ場では、1 株当たりの成虫数が 0.3 頭以上認められたら直ちに防除する。

麦 類

大麦赤かび病の発生は**並**と予想される。出穂前後の降雨は発生を助長するので、出穂期の 3～5 日後とその 7～10 日後の 2 回防除を実施する。

大 豆

ネキリムシ類の発生は**多**と予想される。は種時の防除を徹底する。

果 樹

カキ炭疽病の発生は**多**と予想される。胞子飛散は 4 月中旬からと予想されるため、発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。

ナシ黒星病の発生は**やや多**と予想される。発生初期の防除を徹底する。

ハダニ類の発生は**多**と予想される。抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

野 菜・花 き

トマトキバガの発生は**多**と予想される。発生を認めたら直ちに防除を行う。

ネキリムシ類の発生は**多**と予想される。ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

アブラムシ類の発生は**やや多**と予想される。早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

コナガの発生は**やや多**と予想される。早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

病虫害防除の実施に当たっては、最新の農薬使用基準を確認し、遵守する。
また、周辺作物への飛散防止に留意する。

気 象 予 報

1 か月予報（4 月 3 日付け 新潟地方気象台）

予報期間：4 月 5 日～5 月 4 日

[確率予報]

気 温	低 い	1 0 %、	平年並	4 0 %、	高 い	5 0 %
降 水 量	少 ない	4 0 %、	平年並	4 0 %、	多 い	2 0 %
日照時間	少 ない	3 0 %、	平年並	4 0 %、	多 い	3 0 %

[概要]

1 か月予報

暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高いでしょう。低気圧や前線の影響を受けにくいため、向こう 1 か月の降水量は、平年並か少ないでしょう。

- ・ 4 月 5 日（土）～4 月 1 1 日（金）

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

- ・ 4 月 1 2 日（土）～4 月 1 8 日（金）

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

- ・ 4 月 1 9 日（土）～5 月 2 日（金）

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

注 1) 発生量は平年比。
2) (+) は病害虫の発生に好適な要因、(-) は不適要因、
(±) は好適・不適に関与しない要因を示す

1 水稻の病害虫

イネミズゾウムシ

発生時期	本田侵入盛期は5月4半旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 前年の発生は多(+) (2) 気温は高い(+)
防除上の注意事項	(1) 箱施薬していないほ場では田植え後のほ場巡回に努め、1株当たりの成虫数が0.3頭以上認められたら直ちに防除する。

イネドロオイムシ

発生時期	成虫の本田侵入盛期は5月下旬、幼虫発生盛期は6月中旬
発生量	並(成虫)
予報の根拠	(1) 前年の発生は少(-) (2) 気温は高い(+)
防除上の注意事項	(1) 箱施薬の実施に努める。 (2) 箱施薬していないほ場では、1株当たり1卵塊以上認められる場合、直ちに防除する。

イネヒメハモグリバエ

発生時期	5月下旬以降
発生量	少
予報の根拠	(1) 気温は高い(-)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 深水管理は発生を助長するので留意する。

2 麦類の病害虫

大麦赤かび病

発生時期	4月下旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少(-) (2) 気温は高い(+) (3) 降水量は平年並か少ない(±)
防除上の注意事項	(1) 高温時の降雨は発生を助長するので留意する。

大麦うどんこ病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は未確認(-) (2) 気温は高い(+) (3) 降水量は平年並か少ない(±)
防除上の注意事項	(1) 急進展するようであれば防除を実施する。

3 大豆の病害虫

ネキリムシ類（カブラヤガ・タマナヤガ）

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数は多（＋） (2) 気温は高い（＋）
防除上の注意事項	(1) は種時の防除を徹底する。

タネバエ

発生時期	5月下旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 気温は高い（＋） (2) 降水量は平年並か少ない（－）
防除上の注意事項	(1) は種時の防除を徹底する。 (2) 有機物を施用したほ場は発生が多くなるので注意する。

4 果樹の病害虫

ナシ黒星病

発生時期	5月中旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 前年の発生は多（＋） (2) 気温は高い（－） (3) 降水量は平年並か少ない（±）
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。

ナシ黒斑病

発生時期	5月中旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 前年の発生は少（－） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量は平年並か少ない（±）
防除上の注意事項	(1) 袋かけ前の防除を徹底する。

ブドウ灰色かび病

発生時期	4月下旬以降
発生量	やや少
予報の根拠	(1) 気温は高い（－） (2) 降水量は平年並か少ない（±）
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

カキ炭疽病

発生時期	新梢の発病は5月上旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 前年の発生は多（＋） (2) 気温は高い（＋） (3) 降水量は平年並か少ない（±）

防除上の注意事項	(1) 胞子飛散は4月中旬からと予想される。発病が新梢に認められた場合は直ちに防除する。
----------	--

ハダニ類

発生時期	増加期は4月中旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) 前年の発生は多(+) (2) 気温は高い(+)
防除上の注意事項	(1) 防除は発生源となる下草を刈り取った後に実施する。 (2) 抵抗性害虫の発生を防止するため、同一系統の薬剤を連用しない。

5 野菜・花きの病虫害

トマト灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少(－) (2) 気温は高い(－) (3) 降水量は平年並か少ない(±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

トマト葉かび病

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少(－) (2) 気温は高い(－) (3) 降水量は平年並か少ない(±)
防除上の注意事項	(1) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。 (2) 肥料切れのほ場に発生しやすいので、適正な施肥を行う。

スイカ褐斑細菌病

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	並
予報の根拠	(1) 育苗期の発生は少(－) (2) 気温は高い(+) (3) 降水量は平年並か少ない(±)
防除上の注意事項	(1) トンネル除去時の防除を徹底する。 (2) ほ場排水に努める。

キュウリ灰色かび病

発生時期	連続発生
発生量	少
予報の根拠	(1) 現在の発生は少(－) (2) 気温は高い(－) (3) 降水量は平年並か少ない(±)
防除上の注意事項	(1) 発生初期の防除を徹底する。 (2) 施設内の換気および適正温度の管理に努める。

ネギさび病

発生時期	連続発生
発生量	並
予報の根拠	(1) 現在の発生は少 (－) (2) 気温は高い (+) (2) 降水量は平年並か少ない (±)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

トマトキバガ

発生時期	連続発生
発生量	多
予報の根拠	(1) フェロモントラップの誘殺時期は早い (+) (2) 気温は高い (+)
注意事項	(1) 発生を認めたらすぐに防除を行う

アブラムシ類 (野菜・花き全般)

発生時期	急増期は4月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。

ネキリムシ類 (カブラヤガ・タマナヤガ)

発生時期	増加期は5月下旬以降
発生量	多
予報の根拠	(1) タマナヤガのフェロモントラップ誘殺数は多 (+) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) は種時又は定植時の防除を徹底する。 (2) ほ場およびほ場周辺の除草をこまめに行う。

コナガ (アブラナ科野菜)

発生時期	4月下旬以降
発生量	やや多
予報の根拠	(1) 現在の発生は並 (±) (2) 気温は高い (+)
防除上の注意事項	(1) 早期発見に努め、発生を認めた場合は防除を実施する。